

Title: 「Back home」



中村 創太
1979年生まれ、三十路です。帰って来てから10キロ騎太りました・・・

● 最近のエントリー

- ☞ [オーケイ \(4月27日、ナコンパトム?\)](#)
(2008.04.28)
- ☞ [4月25日、バンコク](#)
(2008.04.26)
- ☞ [4月21日、シェムリアップ](#)
(2008.04.22)
- ☞ [4月17日、カンボジア・シアヌークビル](#)
(2008.04.16)

● アーカイブ

- ☞ [2009年12月](#)
- ☞ [2009年11月](#)
- ☞ [2008年09月](#)
- ☞ [2008年08月](#)
- ☞ [2008年07月](#)
- ☞ [2008年06月](#)
- ☞ [2008年05月](#)
- ☞ [2008年04月](#)
- ☞ [2008年03月](#)

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



RSS 2.0

[Back Home](#) > 2008年04月 アーカイブ

08.04.28

オーケイ (4月27日、ナコンパトム?)

[Tweet](#)

[Check](#)

今日はナコンパトムという所まで行ってきました。
タイで一番大きな仏塔が目印です。



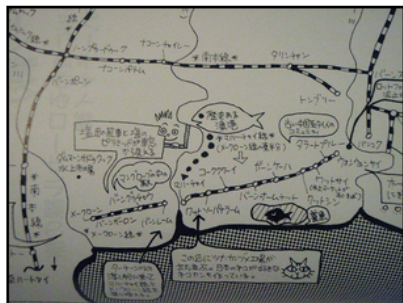
けれど別にここを目指して来た訳ではありません。
成り行き上で何故だか辿り着きました。

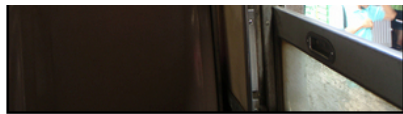


旅の半分以上は失敗で出来ています・・・、少なくとも僕にとっては。

今日はタイ撮影の初日として、ウォンウェンヤイから出ているローカル線に乗っての下見に行ってきました。

全区間合わせても2時間分くらいの距離しかない短い路線なんですけど、面倒な事に、間に川があるのに橋が無いので、川を渡らないと先の路線に乗れないという変な路線です(だから乗ったんですが)。





扉前にとりあえず前半部分に乗ってみて、前半の終点駅マハーチャイへ。
漁港が近くて市場があって、浅草と巣鴨と築地を足して割ったようなかなり賑やかな場所でした。



波止場にあったレストランに入って、
昼飯がてら「川向こうへ行くにはどうしたら良いの？」と聞いてみると、
「駅まで船では行けないわ、バスでなら行けるけど・・・。メークローン（終点駅）へならあの船で行けるわよ」と、店の常連らしき上品なおばさんが英語で教えてくれたんですが、
「自分としては列車に乗らないと意味がない」
ということで初の単独ローカルバス移動（英語表記一切無し）を決行しました・・・。

とりあえずそれっぽいバスの中にいた兄ちゃんに「バーンレーム、パー、バーンレーム？（川向こうの駅名）」
と尝试してみると「OK、OK!」と切符のいい返事。
バスが動き始めるとさっきの兄ちゃんが
「バーンレームのどこへ行きたいんだ？」というから
「駅へ行って列車に乗りたいたんだ。」という、
首を傾げる兄ちゃん・・・。
そして何故か何処かへ電話をかける兄ちゃん・・・。
兄ちゃん電話長いよ・・・。
笑っている兄ちゃん・・・。
なんで一人で納得してんだ兄ちゃん！！
そしていつまで経っても河を渡る気配のないバス。
笑顔でこちらを向いてタイ語で語りかける（心配するなという感じで）運転手と、どうやらこのバスの車掌の役割だったらしい兄ちゃん。
他の乗客よりも高い運賃を払わされて、
やっぱり目標とは違う方向へひた走るバス。
1時間バスに乗り続けた頃に、
・・・、諦めました。
2時間が経った頃、

↑ NAKHON PATHOM

という標識が目立ち始めたので
「どうやらここへ連れて行かれるらしい。」と感づき、
そろそろ到着する気配が出始めた頃に兄ちゃんが僕の肩を叩いて、
「このあとでバンレームに行くから」
・・・って！
「いいよ、ここで降りるから。」
当然目的の列車に間に合うわけもなく、ナコーンパトムに駅があってバンコクへ戻れる事は調べが
ついていたので、兄ちゃんの好意は当然断りました。
「見えるだろ、でかい宮殿が!!!」
「・・・、でかいね・・・。」
そういう訳で本当は200メートル先の向こう岸へ行きたかった自分は、50キロ以上離れた馬鹿で
かい寺の前にいました・・・。



駅で列車を待っている時、兄ちゃんが一緒に切符を買ってくれるつもりだったのか、わざわざ様子を見に来てくれて、
「おまえは切符を買って乗るんだ」と、
「実際は勇気溢れる奴なんだなあ」と思い、こんなことになってなきやこんなに色々話さなかつたんだらうなど・・・。
なんにせよ、ナコーンパトムから乗った列車も元々自分の撮影予定に入っていて、
おかげで撮影に行けそうな場所も予想以上に当たりが付けられたので、
・・・、
『結果オーライ』という事で宜しいでしょうか？

カテゴリ:

post by 中村 創太 | 日時: 2008.04.28 | [パーマリンク](#) | [コメント \(4\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[Back Home](#) > 2008年04月 [アーカイブ](#)

08.04.26

4月25日、バンコク

[Tweet](#)

[Check](#)



カンボジアとタイの国境ポイェトを経由して計2日間のバス移動で、



24日の午後は無事、バンコクへ到着しました。



タイの高速道路から高層ビルを見た時に、首都高速で東京に帰って来るのと同じ感覚を覚えて少しほっとしました。一応生粋の東京人です。これから自分はバンコクのはずれ（手持ちの地図上）にあるウォンウェンヤイという駅から出ているローカル線の撮影を行うため、今日はその周辺で基地に出来るホテルを探しに行きました。タクシーで駅に着いたのは良いんですが、





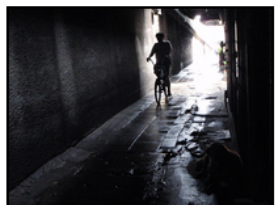
周りにはホテルらしき建物は無く、
英語表記の看板すらなかなか見当たらず、
歩き疲れて一服しようにも、
煙草がどこで売っているのかも分からず、
駅の周りをふらふらする事3時間、



おそらく交番と思われる所に行ってみると、
「ウォンウエンヤイにホテルは無いよ。」
とのこと。



仕方が無いので出来る限り駅に近い所のホテルを探そうとふらふらする事さらに2時間、



だいぶ見方の分かってきた地図のホテルマークを当てにして、
何とか駅から1キロ弱くらいの場所でホテルを発見しました。





そういうわけで明日からはそっちへ移動して、
タイの下町撮影を開始しようと思います。

カテゴリ:

post by 中村 創太 | 日時: 2008.04.26 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[Back Home](#) > 2008年04月 アーカイブ

08.04.22

4月21日、シェムリアップ

[Tweet](#)

[Check](#)

曇りがちなピーチでしっかりと胸と背中をやけどしてきた自分は、
正月が明けて初対面よりずっと活気があり臭いも消えたプノンペンを経由して、



20日夕方、シェムリアップへ到着しました。
とりあえず来たからには、という事で今日は奥、小原、銭場と共に
アンコール・ワット見物へ。



とりあえずアンコール・ワットを素通りして、
象に、



乗ってみる。



その後で代表的な遺跡を散策して、
素通りしたアンコール・ワットもちゃんと見物出来ました。





さて・・・



そろそろ気合いを入れ直しますか。

post by 中村 創太 | 日時: 2008.04.22 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

カテゴリ:

[Back Home](#) > 2008年04月 アーカイブ

08.04.16

4月17日、カンボジア・シアヌークビル

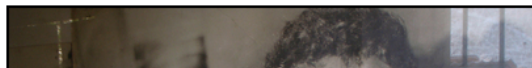
[Tweet](#)

[Check](#)

1週間ぶりのブログ更新です。
カンボジア入国から今まで、グダグダとしていました。
そして今、やっぱりのんびりしています。



<ホーチミン〜フノンベン>
前回のブログでもお伝えした通り、
撮影が可能な鉄道が無いので撮影の予定も無く、
フノンベンの暑さと臭いにもやられ、
とりあえず撮っておくかと思ったフノンベン駅は駅員の「NO」という返事であっさり終了。
この一ヶ月間、いや半年間でも最も記憶にとどまりそうも無い1週間は、日本での日常以上の早
さで過ぎてしまいました。





<トゥールスレン刑務所博物館・ブノンベン>

ブノンベンの印象をはっきり言ってしまうと、

『きったねえ街だなあ』というのが本音です。

(僕たちが滞在したのがクメール暦の正月で仕事を休んでいる人が多かったので、もしかしたら普段はもう少しきれいなかもしれませんが・・・)

それでも最初に人から聞いて想像していた所よりは随分発展していて、大通りには大きなデパートが何件もあり、もしかしたらベトナムのハノイよりも利便性という意味では発展している所かもしれません。

某フライドチキン屋には行列ができていて、その様子はまるで自分が子供の頃に連れて行ってもらった出来たばかりの某ハンバーガー屋のようですし、デパートの屋上のローラーブレード場は子供達で賑わっていて、自分が子供の頃の匂いを感じながら、『10年経ったらまた違う印象になっているんだろうな』という気はしました。



ただ大きな建物にはほぼ全て中国語の名称が書かれていてこの国の商業的実権を握っているのが華僑であることを嫌でも実感させられます。中でもブノンベンの中心、セントラルマーケットのエリアにある派手な店には必ず『SORYA』の文字が記されていました。



こんな所にも、



こんな所まで！？というくらい・・・。



<プノンペンで泊まった安宿の名刺>
どうやらプノンペンに居る限り、ソリヤのお世話にならざるを得ません。
というか東南アジアに居る限り、華僑のお世話にならざるを得ないとは思いますが、
本当に恐るべしです。
現在地はプノンペンからソリヤの経営するバスで5時間、シアヌークビルというビーチリゾートで
奥と富田の男3人だけで海水浴中です。

カテゴリ:

post by 中村 創太 | 日時: 2008.04.16 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[Back Home](#) > 2008年04月 アーカイブ

08.04.10

ベトナム/境界 (4月10日・ホーチミン)

[Tweet](#)

[Check](#)



昨日の朝、ラオカイの駅を出発した列車でハノイに着いたのが午後8時、
ハノイで一泊して朝5時半起き、午前10時にハノイ空港出発という風に、



無駄に強行日程な移動の末、無事ホーチミンに辿り着きました。
暑いですが、そして都会です。



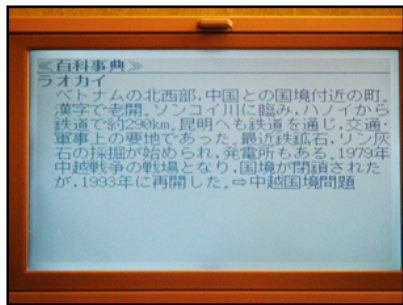
バイクの数は圧倒的に増えましたが、意外と北側より交通ルールが守られている気がします。
今まで、縦横無尽に走るトラックの偉そうなクラクションに毎朝起こされて、
大きな建物の無い、霧がかかった広い空を眺めていたので、
来てそうそうに都会過ぎて笑っちゃいました。
今は全体集合泊のやたらと豪華なホテルの個室にいます。
ボーイに連れられて入った部屋はテンションがあがりましたが、
田舎暮らしが長かった自分には、至れり尽くせりすぎてちょっと落ち着かないホテルです。



「僕が生まれる年にこの街は戦場だった」事を知ったのはラオカイに滞在した最後の日、あらかた荷物を片付け終わって、後はもう次の日にハノイ行き列車に乗り込むだけで、扇風機の壊れた部屋で暑さとうだりながら、暇つぶしに電子辞書でベトナムについて調べていた時の事です。



最初、サバへ向かう中国人観光者の為のサービスで潤っているようにしか見えなかった場所は、1979年の2月には中国との国境紛争の戦場だったそうです。



今考えれば、何気なく写真を撮っていた線路脇の壁にあって穴は、ベトナム兵が向かってくる中国兵にロケット弾を撃っていた穴かもしれない、こんなにラオカイという街がブロックごとに密集していて隙間だらけの形をしているのも何か関係があるのかもしれない、そんな事をぼんやり考えました。

ラオカイに迎り着いた時に最初に声をかけてきたけれど、結局泊まらなかったホテルの兄ちゃん。後日、駅の撮影をしていた時にも声を掛けてきて（今になって思えばそんなに悪い奴でもなかったかな・・・）、僕がラオカイを撮っている事を知ると、ちょっと困い顔をして「ボーダーには行ったのか？」と聞いていました。多分僕がそういう意味で写真を撮っていたと勘違いして、彼はそう聞いたのでしょう。

彼の言う国境には2度行きましたが、結局写真は1枚も撮りませんでした。そこがいかにも見栄の張り合いみたいな趣味の悪い場所で、あまり被写体としては引かれなかったからです。

僕に僕が最初からここが戦場であった事を知っていたら国境の橋の上の趣味の悪いアーチも、そのたもとで釣糸を垂らしている人も、どうしても撮らなければと考えたかもしれないし、壁の穴も『何故か高的に掘られた穴』としてではなく戦争で使われた砲台跡として撮っていたかもしれませぬ。

けれど逆の事も言えて僕がそれを知っていたら、国境近くの船の上で暮らしていた家族をどうしても撮りたいとは思えなかったかもしれません。撮影中に『日本人（グイニャット）に分かる訳が無い』という意味の事をお父さんがつぶやいていた気がします、ただの勘違いである可能性もあります。

自分がやっている事が、他の人間にとってどんな意味を持つのか、実際の所なんて、いつまで経っても分かりはしません。

知っているから分かる事、
知らないから出来る事、
知るべき事、
知るべきではない事、
傷つけない為に知ろうとする事、
知ろうとする為に傷つける事、
28歳にもなって、
自分で何処に境界を付ければ良いのかなどさっぱり分かりません。

だからそんなものに囚われる事無く、
漠然とした想いであっても自分の意志で、
写真を撮る旅を続けることで、
いろんな場所に行って、
いろんな人に出会って、
それがほんの一振りであっても、
実際に自分の目でそれを確かめて、
色々な事を感じようと思っています。

・・・とか言っても次のカンボジアでは撮影の予定が無いのですが・・・。

カテゴリ：

post by 中村 創太 | 日時: 2008.04.10 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

08.04.08

【笑】(4月6日、フォー・ルー)

[Tweet](#)

[Check](#)

ラオカイから列車で1時間半、フォー・ルーという小さな街へ行って来ました。
川沿いで働く人々を撮らせてもらおうと近づいて、



『写真撮らせて下さい。』という軽いノリであっさりOK。



嗚呼・・・切ない姿です。



ええ・・・お約束です。



うん・・・来たね。
・・・

えーい！お前が行け！！





よーし！こっちでも行け！！



<photo by こいつら>

カテゴリ：

post by 中村 創太 | 日時: 2008.04.08 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[Back Home](#) > 2008年04月 アーカイブ

08.04.05

チンシャオ以外は覚えてないや・・・。(4月4日、ラオカイ)

[Tweet](#)

[Check](#)

ラオカイ滞在3日目です。

今日はラオカイから2つ手前の駅、

Thai Nien(最初は読み方もよくわからなかったんですが「タイニエン」でいいみたいです)まで4x5のカメラを担いで行ってきました。

とりあえず、行ってみない事には何にもわからんの精神で行ってましたもの、



・・・何にもありません。いたって長閑な田園風景が広がるばかりでした。



隣の列車が来るまで6時間、このまま泣き寝入りもつまらないし、とりあえずの精神で散策を開始しましたが、これと言うものは見つからず、ふらふらと歩いてゆくと一本道はどんだん駅から離れてゆき、河沿いに出た時に、『そういえば次の駅までは大して距離無かったなあ』と思いつき、とりあえずの精神で隣駅までの直進決定。

大体5キロくらいの距離でした。

道だか線路の路肩だかわからない所をひたすら行くと、

たまたま道に人がいると、たまたま道に人がいると、たまたま道に人がいると、たまたま道に人がいると、

ちよつと押いの元さんと9月1日運つたり、小と体利があつたり、大に吹えちいれにり過つかけちいがか
けたり、牛車に道を譲つたり・・・
とりあえず、口をぽかんと開けて珍し気（不振気？）にこつちを見ている人に、
「チンシャオ（こんにちは）、ガ（駅）、うん、どっち？こっち？（日本語）」
の指差し確認で前進。



そして天気の良い中『まあこういうのもありか』と思ひながら、のんきに歩いているとぬかるみに沈没・・・。



やけっぱちになって小川の砂州で4×5を立てているとさすがに目立ちました。まあ来る人来る人、みんな声をかけてきます。



この兄ちゃん（左側の七三）は撮影中、飽きもせずとずっと隣で見ている上、一緒に煙草を吹かしていると、『家に来て飯でも食わないか』と言ってくれました。
腹は空いていたんですが、
『時間ないから、ごめんね』と断りました。んで本当に焦ってきてさらに前進。





そんなこんなで4時間掛けて、吠える犬の扱いにすっかり慣れた頃、やっと駅に到着しました。駅の名前はLang Gian(無論、読めません)。切符を買ってのんびり煙草でも吸いながら列車を待とうと思っていたんですが、ここまで来て、そう簡単には行きませんでした・・・。切符を何処で買うのか分からなくて、とりあえず、側に居たおばあちゃんに聞いてみると、おばあちゃんは親切に売り場の場所まで付いてきて教えてくれたんですが、やっと落ち着こうとした時にはもう手遅れ。いつの間にか子供達の珍獣を見るような瞳に囲まれ、さらには駅員を含めて大人達がそろそろとやってきて、ベトナム語でやたらと質問を浴びせてくるので口で説明するのが面倒くさくなってバッグから4x5を出して見せると・・・



結果、こうなりました。

・・・、いや、もうどうでもいいやと思って、とりあえず旅に必要な基本単語のコピーを見ながら無茶苦茶な会話をして、ベトナム語を教えられたりしながら、ここでも『飯食ってけとか、ラオカイに戻らずに家に泊まってけ』とか言われるのをやっぱり断りつつ、最終的には子供達とオリンパスのカメラで戯れ、



この子供達に見送られながら、『サバ!! サバ!!』と騒がしいラオカイへ帰りました。終わってみれば、なんだか旅の良さが凝縮されたような1日でした。そのかわり、ビーサンで歩いたせいで足の指の間がすっかり水ぶくれです(決して水虫ではない)。(おまけ)



< photo by 駅で出会った俺より写真の上手なお姉さん >

08.04.03

冷たいシャワーと温いタイガー。(4月3日、ラオカイ)

[Tweet](#)

[Check](#)

4日振りのブログ更新です。長めでいかせて頂きます。
昨日からベトナムのラオカイという街に居ます。



ベトナムの一番北、中国との国境にある街で、サバへ行くための中継地点でもあります、自分はサバへは行きませんが。

とりあえずブツツで来て見たら、「サバ、サバ」と声をかけてくる駅の客引きの兄ちゃんたちの一人に連れられるまま最初に行ったホテルが、割と高いくせに、ドアは叩けば割れるガラス張りだし、ノブはガタガタいってるし、停電したとか言ってロウソク持ってくるし、灰皿ねえし、灰皿もらってやっと落ち着いた頃にまたやってきて「パスポート見せる」と言い出すので、不安になって荷物まとめて出て来ました。疲れてんのに5分置きにくるなよ、兄ちゃん。そういう訳で躍起になってそこを出た後、安全重視でラオカイの駅の近くで一番でかくて目立つホテルへ移動しました。

部屋に案内されると、ここの電気もついてません・・・

どうやら停電はラオカイ中の事のように、8時になったら直るからと言うのが、ホテルを仕切っているらしいお兄ちゃんの一語。

慣れた感じが嫌な予感がありますが、ホテルからレストランまで一人で仕切る兄ちゃんの仕事っぷりはなかなか見事なので、

とりあえずここをベトナム撮影の本拠地に決めました。

といってもテレビは中国語しか喋ってくれませんが。

シャワーのお湯の出しかたがよくわかりませんが。

ビールが強いのは停電のせいだけでしょね？

とりあえず疲れ切ってるからもういいや、

・・・で昨日はダウン。



今日はもう、のんびりします。

濡まった洗濯をしたり、

荷物を整理したり、

PCのチェックをしたり、

昨日までがきつかった分、なるべくのんびりと無理はしないようにしています。

ちなみにベトナム入国から話を戻すと、入国した初日は寝不足でたいした事も出来ず、切符を買いに行きながら、ハノイの街を散歩して、東南アジアの今まで味わった事の無い雰囲気にもわくわくと興奮して、なんかこの街好きだなーと簡単に思っていました。



次の日はラオカイから戻ってきた時に泊まるホテルやら飛行機のチケットの確認やら雑々した事をやって、予定には無かったんですがついでにハノイの街並を4×5で撮ってみたくだったので、朝方4×5を担いだままホテル探しに出かけたんですが、・・・甘かった。

アバウトな感じに住所を調べて、手持ちの地図の通りにホテルを探しに行ったんですが、ちっとも見つかる気配もなく、行けば行くほどアジア色が強い街並に迷い込み、馬鹿でかいリュックを背負った日本人はバイクの上から何度声をかけられた事か・・・





結局もう一度住所を調べ直すと、重たいだけのカメラを置きに滞在中のホテルへ戻り、再度出かけて探す事さらに1時間、上級者の匂いがする路地に白人達がベトナム人と同じように座り込んでいるのを見つけて、どうやらこの辺がバックパッカーの溜まり場らしいと、その路地へ入ってゆくと案の定、ホテルの看板を発見。

本当に受付なのか？やる気の無い姉ちゃんだったらとしたやり取りをして、若干高い気がする金を払って予約終了。

飛行機の予約の為に航空会社へ行く前に、そこの近くの湖で煙草を吸っていると、まあガラの悪いのやら、変な日本語で喋るおっさんに、「あなたは中国人に見える」とか言われた上に、「あなたも、私と喫茶店に行く」とか怪しい提案をされました。ああ本当に居るんだと思うだけで、当然付いては行きませんが・・・。

面倒くせえとやさくれ状態で飛行機の子チケットを購入。結局それだけの事に3時間以上費やして、一度宿へ戻り今度はこそ本当の一服・・・。



くたくたでしたが、それでもハノイを撮影する機会は今日しかなかったもので、午後はもう一度4x5を担いで、迷ったせいで見つかった撮影ポイントへ行き、服の修繕屋の店員に文句を言われながら撮影。駅舎を撮りにまたとぼとぼ移動して、ハノイ駅のラオカイ方面へ行く駅舎の撮影を終えて、一日計100回くらいバイクに声をかけられて、日が暮れる頃、ようやく帰宿しました。



次の日の起床は午前3時半。

ラオカイへ行くのに唯一、日中を走る6時10分発の列車に乗る為です。

ホテルの部屋を出る時に、暗闇の中でシルエットだけになっている佐藤さんに励まされ、見送りの為にロビーで待っていて下さった熊倉局長とタクシーで昨日行った駅まで行き、



やっと空が明るくなり出した頃に出発した電車は、目の前の席のフランス人夫婦と自分を除けば現地の人だけで、演歌みたいなベトナムの歌が響き渡ったり、車内で寝煙草してる奴がいたり、隣に座ってきて脇腹を小突いてくるのがやたらうるさい兄ちゃんだったり、十代の女の子だったり・・・。





そんなこんなで車窓の撮影をしながら10時間、途中で睡魔に襲われて気絶する事5回くらい、ふらふらしながらラオカイに辿り着いて、あたふたしたまま昨日を過ごして今に至っています。まあ、そういうわけで、とりあえずここにあと6泊しながら撮影をしようと思います。

カテゴリ:

post by 中村 創太 | 日時: 2008.04.03 | [パーマリンク](#) | [コメント \(4\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)